

2023年度学校自己評価報告書(香里ヌヴェール学院小学校)

学校目標	カトリックの宗教的な価値観を基盤として、人を愛し、自らを高める強い意志と、豊かな心をもつ子どもを育てる。
	「多様な価値観の中で平和を軸に問題意識を持つ」、「地球上の仲間とともに生きる責任感に目覚める」、「痛み・喜び・悲しみに寄り添い、成長を分かち合う」の3つの力を育成し、カトリックの精神に基づいて平和な社会を作り出す子どもたちを育成する。

対話や表現力を育てる P B L 授業	新しい社会を創造するために課題解決力を身につけるPBL（Project（Problem） Based Learning）の実践
英語教育	英語運用能力を基礎から段階的に培う週4時間の英語授業（SSC）／ 複数教科の授業の60%を英語で行うイマージョン教育（SEC）
ICT教育（オンライン学習）	高度情報化社会に対応する能力を育むICT教育。コロナ禍でも学びを止めないオンライン授業の実現。

重点目標	取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
教育充実（P B L・英語教育・ICT教育）	1.PBL型授業の導入	1. PBL授業 ・各教科内におけるペアグループによる探求型教育(PBL授業)の成果があったか。 ・学年進行に合わせたPBL授業の導入・実践ができたか。 ・児童の発言や興味を活かした授業を展開したか。 ・ノート、スライド、作品などの学習記録を残し、自己評価や相互評価ができたか。	・生活科及び総合的な学習の時間を中心としたPBL(Project Based Learning)の実践に加え、授業では各単元の要所で積極的に課題解決型の学びを実践 ・低学年においては、日常の対話を通したクリティカルな授業とリフレクションをくりかえし、PBL学習の土壌となる授業を展開 ・高学年においては、「自ら課題を発見→探究→まとめ→プレゼンテーション」の実践により思考力深化を促進 ・4年【総合的な学習の時間】では、企業と連携し、児童自身が本のリユース事業に参画し、「社会とつながる」視野を育成。同時にキャリア教育の観点から、通年で様々な職種の方々(保護者の方々)からの講話を聞き働くことの意味を確認 ・5年SSC【総合的な学習の時間】では外部講師と連携し「社会とつながる」ことを目的として、合宿等で訪れた地域の特長をPRするP物産展を企画・実施
	2. 英語教育	(SEC) ・イマージョン授業の円滑な導入と実施ができたか。 ・複数教科を英語で学び、基礎学力を身につけることができたか。 (SSC) ・英語教育の充実を図ることができたか。 ・英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができたか。	・外国人教員と日本人教員2名担任制を実施 ・60%を越える授業を英語で行うイマージョン教育を実施(国語・社会・特活・宗教を除く) ・6年間の4技能別カリキュラムの見直しと改正(使用テキストのグレード見直しと変更) ・TOEFL Primaryを全員受検し、英語運用能力を指標として確認(英語運用能力が高いレベルに推移している様子が確認できた) ・週3時間＋モジュールタイム10分間×4回の英語授業を実施 ・英語の授業は全て外国人教員と日本人教員の2名担任制で実施し、授業以外でも、外国人教員と日常的にコミュニケーションをとれる環境を実現 ・3年生以上の希望者は英語力定着の指標として、TOEFL Primaryを受検 ・低学年からの『ジョリーフォニックス』を軸とした発音トレーニングにより、高学年での英語リスニング・スピーキング力の伸長を実現
	3. ICT教育	・ICT機器(iPad/Chromebook)を学習場面で使用できたか。 ・授業の中でICTを活用して、効果的であったかを振り返り、授業の改善に活かすことができたか。	・SSCはChromebook、SECはiPadを1人が1台を使用する環境を完備 ・全教室(特別教室も含む)の大型テレビ(Big Pad)を積極的に活用 ・ロイロノート(教育活動用アプリケーション)を本格導入。児童の発達段階に合わせ授業や諸活動で活用。(特にSSCではタイピング練習を積極的に導入,タイピングスキルの向上が顕著)
	各種研修	・建学の精神、教育目標に基づき、実現を図る観点や方法を理解できたか。 ・各種研修を受け、授業改善・授業力向上に活かすことができたか。	①英語教育 ・SEC部会によるイマージョン教育の研究と実践の共有 ②探究型教育 ・定期的な外部講師による諸研修実施、および、研修内容を活用した授業実践の検証(教員間授業相互参観と事後研修)を実施 ③ICT 教育 ・ICT支援員によるChromebook、Googleclassroomその他アプリの活用法と、セキュリティーや危機管理に関する研修の実施 ④宗教教育・人権教育 ・カトリック精神の理解と醸成のための研究(聖書)および研修 ・本校独自の人権教育カリキュラム構築のための研修 ⑤生活指導・保護者対応、特別支援教育 ・SCとの連携による、児童一人ひとりの成長に合わせた組織的サポートの検討 ⑥初任者研修 ・初任者指導、初任者による模擬授業、実践交流の研修会実施。宗教研修を通年で実施しカトリック教育の基盤となる精神性を醸成 ⑦西日本私立小学校連合会主催の研修会、その他自主的に様々な教育研修会に参加
教育環境の整備	安心・安全な環境の構築	・施設・設備の整備に努め、環境美化に努めたか。 ・不審者の侵入を未然に防止するため、施設の配置や防犯対策ができたか。 ・安全点検を定期的に行い危険箇所を見つけ整備することができたか。	①設備の点検と改修 ・はだしの広場リニューアル工事(遊び方を児童自らが開拓できる環境を整備) ②防災・防犯設備 ・中学高等学校とともに、守衛体制の強化 ・各学期3回ペースの避難訓練実施 ③月に1回の学校安全点検実施と、修繕必要箇所への早期対応

学校関係者評価
社会全体として、学校教育が昔とは様変わりしているが、小学校の間は、基礎的なしつけと心の教育、算数・国語を中心に基礎力定着をすることが大切だと感じる。自主的に学習する習慣や、苦手なことに挑戦し続ける姿勢を小さいころから身につけさせてほしい。お祈りやカトリックの教えをととても大切にしていると思う。コロナ禍で保護者間の直接的な交流が減ったのか、保護者間でLINE等での連絡に拍車がかかったように感じられる。保護者会活動のあり方も社会のあり方や保護者のニーズをみながら、より良い方向に変えていきたい。